

第2回平和島駅周辺地区グランドデザイン専門委員会議事要旨

日時：令和6(2024)年7月17日(水)9:30~11:00

場所：大田区役所本庁舎5階特別会議室

委員：二井 昭佳 国土舘大学 理工学部まちづくり学系 教授

佐瀬 優子 法政大学 デザイン工学部都市環境デザイン工学科 教育技術嘱託

齋藤 浩一 企画経営部長

池田 中 鉄道・都市づくり部長

遠藤 彰 都市基盤整備部長

1 開会

2 平和島駅周辺地区グランドデザイン本編(素案)について

事務局より資料1を基に説明

1章 グランドデザインについて

(委員) 旧東海道(美原通り)の歴史的な位置づけなどはきちんと整理した方が良い。

(委員) P.5の用途地域図に策定エリアを示す円を重ねているが、この線が赤色のため、近隣商業地域の赤色と混同してしまう。P.11のハザードマップについても同様の誤解を招く可能性がある。

2章 平和島駅周辺地区のまちの現状と課題について

(委員) まちの現状のキーポイントが吹き出しで示されているが、この内容がどのように課題につながっているのか、紐づきが分かるようにしたい。

(委員) P.6に住宅が増えて商店街の連続性が欠けている旨の記載があるが、P.5の用途地域図を参照すると、近隣商業地域や準工業地域に指定されているが、実際には宅地として利用されていることが多い。実際は住宅地としてのニーズが高いエリアだという捉え方もできる。

(委員) P.12およびP.13の地区資源の図で示されている内容に重複している部分がある。

(委員) 子育て世代へ向けた支援については、区の基本構想でも謳われており、最も重要なテーマの一つであるが、課題や取組にその旨の記載がない。

(委員) 3章の将来像の補足文章に子育て支援のことを記載することが考えられる。

3章 まちの将来像について

(事務局) 新しい取組を展開していくポテンシャルがあることや、子どもたちが将来に向かって輝いていける場所になることを期待して「希望を抱き」のフレーズをいれている。

(委員) 「江戸」まで書くのは踏み込み過ぎでは。歴史の要素をいれたいのであれば、たとえば「東海道の風情」に変換することが考えられる。

(委員) 将来像のフレーズについては学識ワーキング内でも検討する時間を設ける。

(委員) P.18のパスの下に記載されている文章は、将来像のキーフレーズだけでは伝えられない情報を補足するものとして重要である。

4章 まちづくりの基本的な方針と具体的な取組について

- (委員) 5つの分野別方針の体系はP.19の上部に示されている概念図は意味が伝わりにくい。掲載するかどうかも含めて検討する必要がある。
- (委員) 方針1「駅前機能の充実」の取組②～④全てが「向上」で終わっているのを検討していきたい。
- (委員) 方針1「駅前機能の充実」に記載されている取組のジャンルが、上から交通、にぎわい、交通、にぎわいと交互になっている。同じジャンルの取組は近くに並べて記載した方が読みやすい。あくまでも賑わいの創出が目的で、滞留空間や交通モードはそのための手段なので、にぎわいに関する取り組みを先に記載する方がよい。
- (委員) 方針2「人々を引き寄せるにぎわいの創出」の『引き寄せる』と方針3「まちなかに人々を誘う」の『人々を誘う』はほとんど同じ意味であり、表現を再検討すべきだ。
- (委員) 方針3「回遊性の向上」は、楽しくまちを回遊できる歩行者ネットワークを構築することを一番に掲げた方がよい。まちの景色が視覚的に連続することも重要である。
- (委員) 方針の5「明るい社会の実現」の中で記載されていることが環境やユニバーサルデザインのことだけに留まっている。大田区はSDGs未来都市に指定されており、その内容は多岐にわたるため、環境やユニバーサルデザイン以外の暮らしなども記載すべきである。
- (委員) 「SDGs」というワードを方針のフレーズに表現することも考えられる。
- (委員) 方針5「持続的に発展に寄与する～」は「持続的“な”発展に寄与する～」の方が適切と考える。

5章 将来像の実現に向けてについて

- (委員) P.26の図中で行政から実施主体に伸びている矢印は「支援」ではなく「協働」の方が相応しい。公共事業が伴う場合は「支援」だけでは実現しない。
- (事務局) 他の区の計画でも掲載している概念図をスライドしているため、今回のGDで何を伝えた方がよいのかを精査したうえで修正する。

全体について

- (委員) 手に取った人が、平和島のまちが変わることに対する期待感を感じてもらえるようなポイントをつくることが重要である。一般的な行政計画と同じにならないようにしたい。